

五十子合戦・鵜森 先人達の足跡

～ 戦国は五十子からはじまった ～



日時 令和2年11月9日(月)
11月16日(月)

AM10:00～

廻り場所 東五十子・鵜森
集合、食事は「てんぐ茶屋」

案内人
NPO法人本庄ファンクラブ
今井 玲子

同行スタッフ
つきみ荘

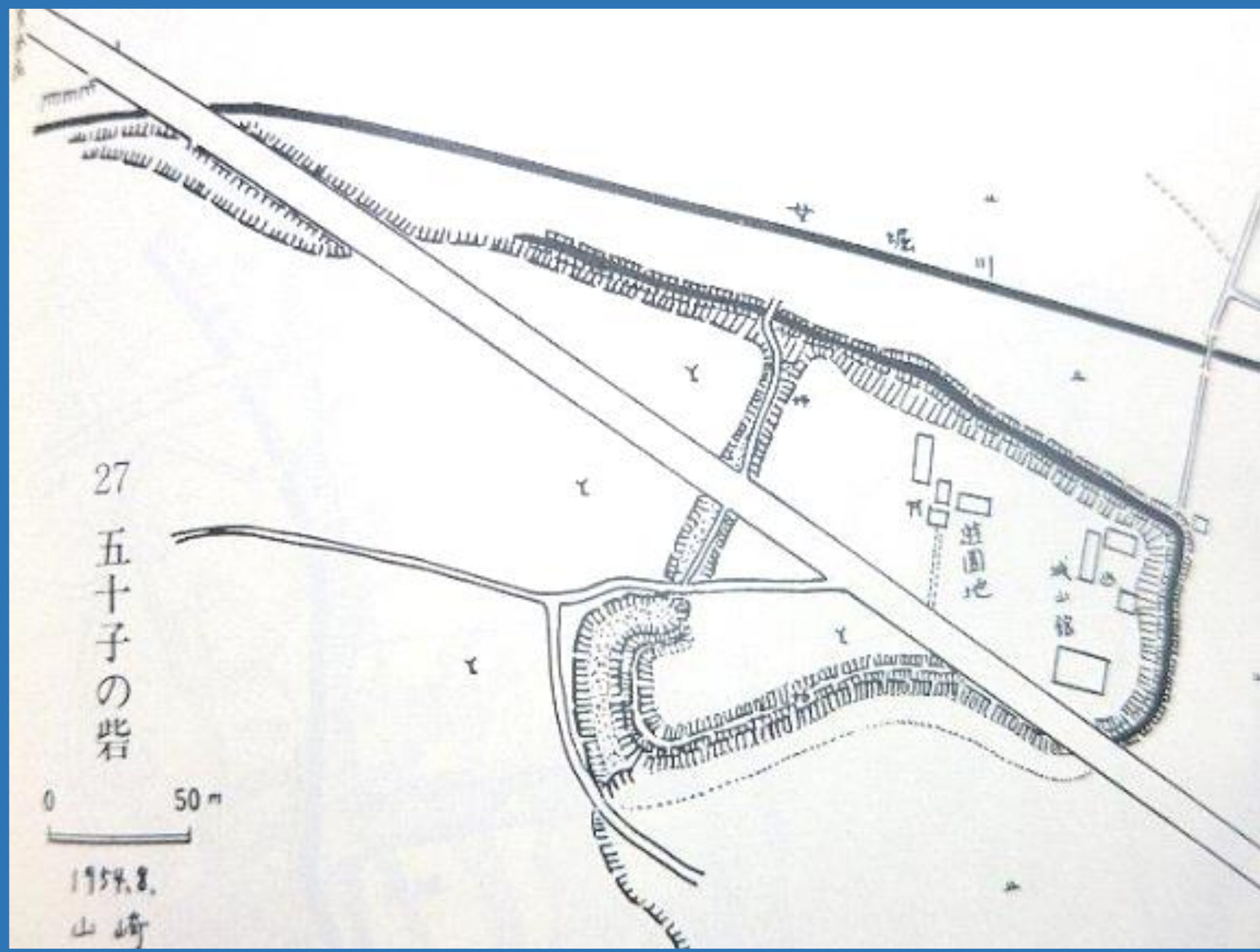
倉林 律雄
設楽 博一
金子 美穂



身近なパワースポット
ハイキング

いかっこかっせん

『五十子合戦』



27
五十子の砦

0 50 m

1954.8.
山崎



五子陣の立地

そもそも五十子合戦(享徳の乱)が始まったきっかけは何でしょう？

永享の乱 永享10年(1438年)

第4代将軍足利義持には4人の息子がいました。長男が将軍を継ぎ、ほかの息子は室町幕府の慣例によって全員出家しました。ところが、第5代将軍となった義量は酒に溺れて20歳で亡くなります。後継者をくじ引きで決め、第6代将軍に義教が就任しました。まさかのくじ引きで面白くないのが鎌倉公方の持氏です。何かにつけて将軍に逆らい、自分の息子が元服するときに、義久とつけました。本来なら「義」の字は将軍家しか付けてはいけなく、この場合将軍の「教」をもらって「教久」とでもするべきだったのでしょう。関東管領の上杉憲実はこのままでは将軍から討伐令が出てしまう、と持氏を説得しましたがいうことをききません。それどころか、持氏は上杉憲実が自分の職を狙っていると思い始め、憲実の討伐令を各地に出します。憲実是将軍に直談判。朝廷から持氏の討伐令を出してもらいます。ついに永享の乱のはじまりです。憲実が平井城に戻ると、持氏は鎌倉から平井城へと進軍します。一方、将軍側は鎌倉に向かって進軍していきます。結局、持氏は憲実に敗れ、鎌倉へと逃げ帰りますが、将軍義教は総攻撃し、持氏と義久は自害させられました。

第4代鎌倉公方
足利持氏の墓
(鎌倉市別願寺)

児玉さざえ堂のある成身院
の中興開基

第10代関東管領
山内上杉憲実

永享の乱の翌年、足利学校を再興



上州藤岡上杉管領太鼓

『平井城 夏の陣』

(永享の乱)
一四三八年

口上

時は永享十年、今から五百八十数年前。

鎌倉を発った公方足利持氏は、武州河越方面を経て、

数万の軍勢を従い、ここ、上野の国緑埜郡、上杉憲実公

の守る平井城へと殺到した。

敵の先陣は、一色直兼。馬のくつわを並べたて、十重

二十重どつとばかり攻め寄せる。

城塞高く天を突き、たなびく軍旗は上杉の竹に雀の旗印。

一斉に沸き起こるほら貝の音。

敵の頭上に鳴り響く、いと勇しき陣太鼓。

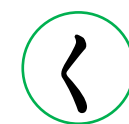
ドンドンドンドンドン
ドンドンドンドンドン

上杉家家紋





城山館敷地内にある
本庄かるた



「桑茂る
五十子合戦
古戦場」



お稲荷様があるので、五十子古城図には「稲り」とある所かと。図には、西側が堀りで、北に「大手」とあります。



てんぐ茶屋と、隣の城山館のところが上杉（五十子）陣の本丸でした

「五十子陣（城）」の建築年代は1457年頃と推定され、長尾景春の乱によって解体されるまで約20年間、上杉方の本営が置かれていました。昭和30年頃までは土塁の一部が残っていました。

ちなみに、足利持氏の本拠地は、古河です。



てんぐ茶屋の裏にある公園
利用者はいるのかなあ...？

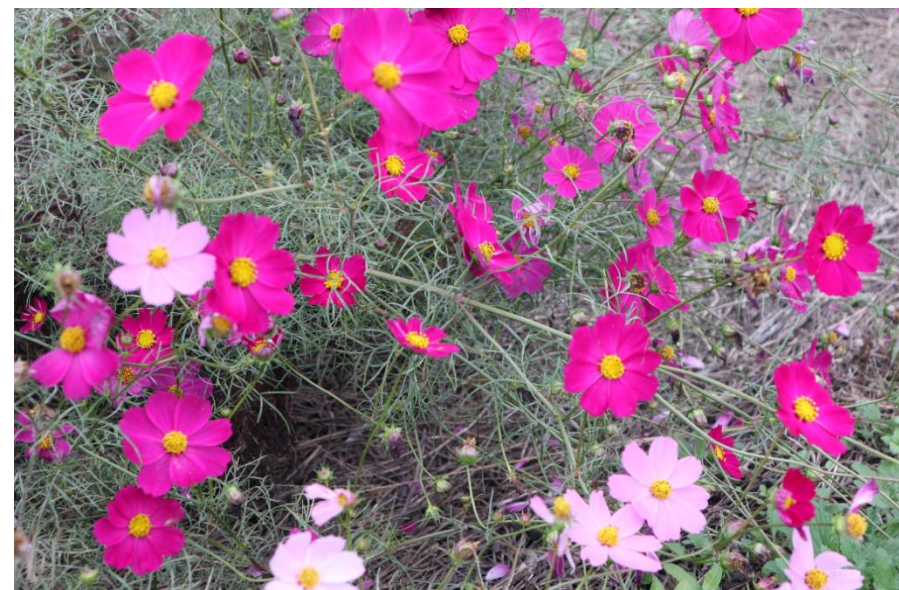
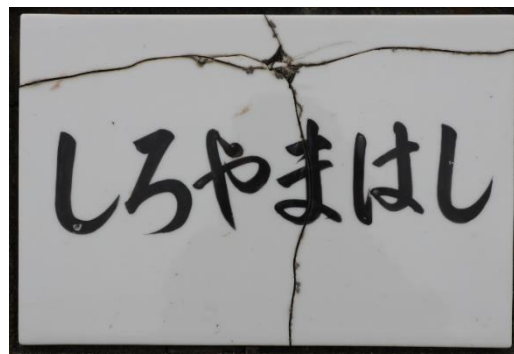


五十子城は高低差5mあったので、だいぶ上り坂です



公園の裏に
通じる階段

女堀川にかかる橋





女堀川 先に見えるのが二の橋



どこまでも続く 田園風景（10月初旬に撮影）



鴨が遊ぶ元小山川



元小山川改修記念碑



真言宗豊山派

寂度山往生院利益寺

心の静まり。衆生の極楽往生という阿弥陀如来のご利益を顕したもの

宝暦9年(1759)建立

住職 尊海師

本尊(秘仏)阿弥陀如来像は武州八幡山(見玉町)の石工 安兵衛の作



寂度山往生院利益寺 本堂・客殿建立記念碑

当山は本庄市鶴森に位置する真言宗豊山派の寺院であり、阿弥陀如来を本尊とする。境内の大銀杏は樹齢四百五十年と伝えられている。
当山旧本堂は宝暦九年（一七五九年）の建立より二百五十余年を経て、損壊の危機にあった。ここに平成二十五年（二〇一三年）、檀信徒の信援のもと新本堂の建立が発願された。

本堂建設事業に際し、本尊秘仏阿弥陀如来宮殿に、「宝暦三年七月 尊海代武州八満山安兵衛作」と箱書きされていることが確認された。これは本尊阿弥陀如来が一七五三年、住職尊海師の代に武州八満山安兵衛なる石工の手により作されたものであることを示している。武州八満（八幡）山は現在の児玉町八幡山に当り、このことから当時の児玉と鶴森地区の縁が窺われる。

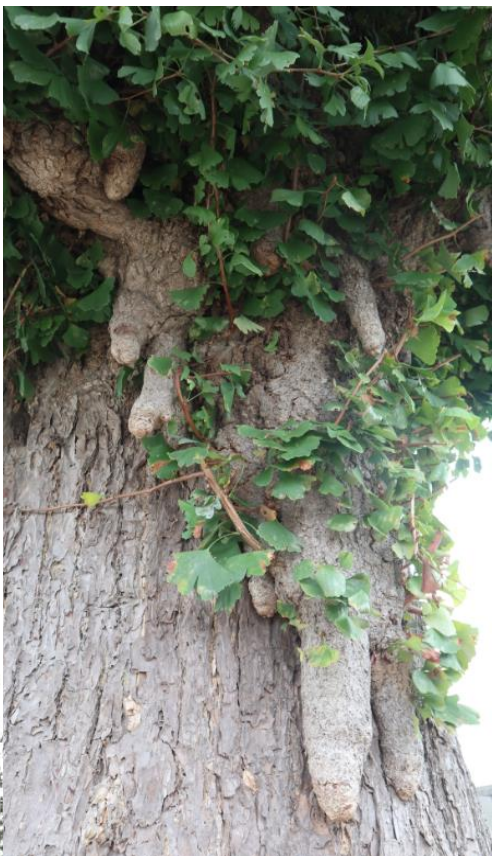
また寺宝大般若經六百卷の箱書きには、伝承の途絶えていた当山の院号が残されていた。そこには「寂度山往生院 利益寺什物」と記されていた。

現在伝えられている当山の号は寂度山とされ、仏教の理想とする心の静まりを表す。それに対し、箱書きには当時の山号、院号は寂度山往生院であった。寂度とは衆生救済であり、往生とは極楽往生を意味する。極楽往生による衆生救済は、他ならぬ本尊阿弥陀如来のご誓願である。

当山の利益寺という寺号は全国的に見ても珍しい。その利益寺の寺号は、山号と院号を合わせ、衆生の極楽往生という本尊阿弥陀如来のご利益を顕し出したものであった。

平成二十八年五月十五日、本尊のご加護のもと、新本堂と客殿が無事完成に至った。本尊秘仏阿弥陀如来の宮殿もまた修復が完成し、開山当時の輝きを我々に伝えている。
この大事業はひとえに本尊のご加護と檀信徒の信援の賜物であり、法縁に深甚なる感謝を捧げるものである。願わくは次の二百五十年、新本堂が地域の信仰の拠り所となることを。
重ねて乞う、伽藍安穩、興隆仏法、地域安穩、万民豊樂、壇信健勝。

維時 平成二十八年五月十五日
当山十八世 中僧正 伊久間邦夫 記之



浅間神社には、天正年間（1573〜92）早野半兵衛により創建とある。銀杏の樹齢から見ると、この説が近いように思われるのですが…

樹齢 450年





鵜森 浅間神社

ご祭神…木花咲耶姫命（このはなのさくやひめのみこと）
天照大神の孫の夫人、海幸彦・山幸彦らの母親

当社と利益寺を名主の早野半兵衛が1573～1592年に建立したと伝えられていますが、「児玉郡誌」によると、五十子城砦の要害の地であることから、寛正年間（1460～1466）に上杉房顕の奥方の梅沢御前がその守護神として勧請し、社殿を建立した、とあります。100年以上前のこととなります。



木に覆われているので見えづらいのですが、高さ10mの塚の上に鎮座しています。
かつてはもっとおおきな杜で、そこには鶉が生息していたことから、鶉森という地名になりました。





曹洞宗 雷雲山増国寺

松陰西堂… 五十子合戦の回想録『松陰私語』を書いた人物。

永享10年(1438年)生まれ

新田家の先祖累代の墓がある太田の長楽寺に入り、後に足利学校で学び、岩松家の陣僧になって、戦の指揮をしたと思われます。

太田道灌とかたい約束を結んだ友(盟友)です。

公方成氏と、関東管領上杉氏が対立抗争する15世紀後半の享徳の乱の体験を記した『松陰私語』五巻は、大変貴重なものです。



五十子とは？

五十日祝い…健全な成長を祈願するお宮参りのこと。一般的には生後一か月ですが、地方によっては男子は50日目、女子は51日目に参拝します。

『北武蔵名跡志』によると、「雅言集覧」や「和訓栞」などに、五十日をいかとよめるは、子生まれて五十日目に祝うこと也と云う」とあって、「この村名も其意にて、日の字を略しか」とあります。



川の水が濁らない
ようにひらがなでは
濁点をつけない



江戸に近いほうが漢字
遠いほうがひらがな



日本橋が起点になります。
(国土交通省道路定義)

「日本橋」の文字は第15代
将軍徳川慶喜が書いたものです。



17号沿いにあります。

こちらは二の橋、トゲウオ 又は
ムサシトミヨ





ムサシトミヨ
本庄市の花…月見草





国道17号にかかる橋は、岡部から本庄に入ってすぐ一の橋、上里の手前で五の橋。

(四の橋はありません。)

三の橋 諏訪町



五の橋 小島

橋に名前がついていません。





ここでトイレ休憩です。

こころよく貸してくだ
さいました。
今までは予約をすれ
ば見学ができました
が、コロナ対策で今
はできません。

集合写真だけは撮ら
せていただけます。



トゲウオ
(ムサシトミヨ)
のモチーフ



湯かつこ東側の修景池



十月二十五日撮影

本多静六（埼玉県出身、日本初の林学博士—明治神宮の森の造営などで功績があった）博士の自然の力を活かした森づくりの考えを取り入れています。

9月29日撮影



ムサントミヨ

絶滅危惧種、天然記念物

冷たい湧水地で水草があるところに
棲息

体長3.5～6cm

水温10～18℃に棲息

オスが小鳥のような巣を作り、子育てをする。

背ビレ、腹ビレ、尾ビレにとげを持ち、身を守るときにとげをだす。





小山川の水を修景池
に引き込み、浄化して
また小山川に戻しま
す。





右に湯かっこがあります。

ここで2本の
川が合流し
ています。

下の川が「志戸川」旧「死度川」、右上の川が「小山川」旧「身馴川」

五十子陣跡（本庄市）

五十子陣^{いっかっこ}は1454（享徳3）年に始まった享徳の乱に際し、上杉氏によって築かれた陣である。構築年代は1457年頃と推定され、長尾景春の乱によって解体に至るまでの約20年間、上杉方の本営が置かれていた。陣の中心部は、市内東五十子の小山川と女堀川に挟まれた本庄台地の北東端に位置し、台地の縁辺をなす高低差約5mの断層崖を正面の防御線としている。

現在、陣の遺構はほとんど見ることはできないが、昭和30年頃までは土塁の一部が残存していたといわれる。また、付近には「城跡」・「赤坂」・「城下」など、城郭に関連する小字名が残されている。

陣の中心に近い東五十子遺跡では、区画溝・方形竪穴・井戸などの遺構から、「かわらけ」・青磁・白磁・播鉢^{すりばち}・内耳鍋・風炉など多彩な遺物が出土している。



室町時代、
利根川右岸に位置する児玉・深谷地域は、
軍事的・政治的・経済的に重要な位置を占めていた。
上杉氏や後北条氏などの戦国大名にとって、
この地の在地武士層を引き入れることが
東国を支配するうえで軍事的に大きな意味をもつことになる。
その人々の生活とは。
本庄市・美里町・神川町・上里町・深谷市・早稲田大学が連携し、
「室町・戦国期の児玉・深谷地域」と題し、
各地域から出土した考古資料を展示する。

本庄早稲田の社ミュージアム第一回企画展
本庄早稲田の社地域連携展覧会

室町戦国期の
児玉・深谷
地域

令和2年10月15日^木～12月20日^日
※10月15日のみ午後3時～午後7時。休館日 月曜日（休日の場合は翌日）

会場：早稲田リサーチパークコミュニケーションセンター2階 情報資料室
本庄市西富田1011（早稲田大学93号館）

時間：午前9時～午後4時30分 観覧料：無料

共催：本庄市教育委員会・美里町教育委員会・神川町教育委員会・上里町教育委員会・深谷市教育委員会・早稲田大学

問い合わせ：本庄早稲田の社ミュージアム
Website / <https://www.hiomm.jp/>
E-mail / hiomm@city.honjo.lg.jp TEL / 0495-71-6878

早稲田大学
Waseda University



■室町・戦国時代■

1338 年、足利尊氏によって開かれた室町幕府ですが、南朝側との抗争、地方機関である鎌倉府との対立、土一揆・国人一揆の頻発などがあり、政治は安定しませんでした。一方、明をはじめとする海外との貿易は盛んで、陶磁器、銅銭、書籍など多くの文物がもたらされました。1467 年に起きた応仁の乱の後、幕府の権威が衰退すると、実力によって領土を広げた戦国大名が各地に割拠するようになりました。

関東管領上杉氏と鎌倉公方足利氏の争いから関東一円を巻き込む大乱に発展した享徳の乱（1454 ～ 1482 年）は戦国時代の先駆けとなり、本庄には上杉方の本営として五十子陣が造られました。

■五十子陣跡の出土品

五十子陣跡は 15 世紀後半に起きた享徳の乱（1454 ～ 1482 年）に際して、小山川と女堀川の合流点に近い本庄台地上に設営された上杉方の本営です。

最近の発掘調査によって、陣の範囲は本庄市から深谷市にかけての広大な区域に及ぶことがわかってきました。陣の中心部周辺では、大小の区画溝、半地下式竪穴建物、井戸などが検出され、大量の「かわらけ」のほか中国製の磁器、火鉢、香炉、播鉢、石臼、硯、銅銭など多彩な遺物が出土しています。これらのことから、五十子陣には堀や土塁で囲まれた堡塁に加え、武士以外の人々が居住する町屋的な空間も付随していたことが考えられています。



五十子陣跡からの出土品

酒席用の杯・かわらけが大量に出土





瓦質土器 浅鉢
五十子陣跡／東五十子
戦国時代／15世紀後半



瓦質土器 浅鉢
五十子陣跡／東五十子
戦国時代／15世紀後半



瀬戸 小皿
五十子陣跡／東五十子
戦国時代／15世紀後半



中国陶磁 白磁
五十子陣跡／東五十子
明／15世紀後半

東五十子から出土した
15世紀、五十子合戦
の頃のものです。



おはようございま～す

秋晴れのハイキング日和です。

まずは、準備体操から…
すがすがしいですね～

体操をしているこの場所が
まさに五十子城の本丸があった
ところです。



てんぐ茶屋の西
にあるお稲荷様





本庄かるたの五十子城跡の紹介



鵜森地域をひとまわり。稲刈りも終わって、すっかり晩秋の景色です。





利益寺の大イチョウ、樹齢450年

「ご利益がありますように…」

鵜森浅間神社





「ヘエーッ そうなんだ
知らなかった」
史跡のほかにもあちこちで
解説が加わります。



この瞬間だけマスクを取って、「はいポーズ！」



湯かつこ東にある池です。
鴨や鯉の憩いの場となっており、これから紅葉を
迎えるところです。

小山川の土手は、一の橋から見玉千本桜まで
14kmあります。





11月16日 快晴 第2グループ

今日も天気にも恵まれ、暑いくらいでした。
住み慣れたところだけどこんな所があったんだ、とか、こんな歴史があったなんて知らなかった、などの声が多く、案内をする私はそんな声が聴けるのが嬉しくて、秘かに達成感に包まれます。
マスクが本当に息苦しいけれど、開催できて良かったです。













全行程およそ6kmです。

お し ま い